

第33期 (2013年6月期)

# 第3四半期連結業績説明資料

2013年 5月

株式会社

**ドンキホーテ**

Don Quijote Co.,Ltd.

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki.com>

e-mail : [ir@donki.co.jp](mailto:ir@donki.co.jp)



## ドン・キホーテ、最高益更新

### 12年7月～13年3月期

**ド**ン・キホーテが7日に発表した2012年7月～13年3月期の連結決算は、営業利益が前期比12%増の261億円、経常利益は同17%増の267億円と大幅増益を達成した。

売上高は4%増の4,281億円だった。景気の回復期待が話題になり始めたものの、生活必需品に係る価格競争は未だに収まる気配が見えないことから、お客さまのライフスタイルを提案するセールスマックスの工夫と改善策を駆使して、競争激化などのマイナス要因を補って堅実な成長を果たすことが出来た。

**主**力のドン・キホーテ既存店売上高は、天候不順や営業日数のマイナス要因により0.7%減となったが、セールスマックスとプライベートブランド商品の販売強化などで、連結総利益率は0.6ポイント改善した。グループ店舗数はハワイにおける3店を含めて252店体制となった。

13年6月期における業績予想は、売上高5,630億円（前期比4%増）、営業利益313億円（同6%増）及び純利益202億円（同1%増）と中間期に続いて従来予想をそれぞれ上方修正し、24期連続増収増益と過去最高益の更新を見込んでいる。



## 2013年6月期 3Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債・純資産の状況
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー&設備投資の状況
- ✓四半期業績推移

## ドン・キホーテグループトピックス

- ✓月次販売高の状況
- ✓出店状況&ハイライト情報
- ✓グループ企業マトリクス
- ✓PB商品の状況
- ✓アクリーティブの状況

## 2013期6月期 通期業績予想

本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

本資料中、ドン・キホーテは「DQ」、アクリーティブは「ACR」と表示している箇所があります。

## 1. 3Q累計連結業績概況

セールスマックスの工夫と改善が、利益成長に大いに貢献！

- ▶ 消費者心理の方向感が定まらなかった中で、地域毎のライバル店の価格訴求に徹底対抗しながら、「最適なセールスマックス」を追求。「売上総利益の増大」を図ることにより、当3Q累計期間も堅実な成長で収益拡大を実現！
- ▶ New MEGAの出店と拡大は、「日用雑貨品」や「食品」などの生活必需品の販売を促進し、地域に浸透。お客さまのリピート率上昇に伴って、ライフスタイル型商品や付加価値商品などが上昇基調になり、バランス良い展開店として認知度向上！
- ▶ 店舗の大型化や地方展開に伴う出店諸費用及び光熱費などの販管費増加要因に対しては、売上総利益の改善で吸収。既存店における在庫抑制策も順調に進み、交差主義比率が上昇するなど、主要経営指標は着実に改善！
- ▶ 3Qの状況は、1月は低気温と異常気象に悩まされ、2月は営業日数の減少があったものの、3月は高気温で雨天日も少なかったことを主要因とした外出率の上昇が、お客さま数増加に寄与！
- ▶ これらのことから、3Q累計連結業績は、売上高4,281億円（前期比4.8%増）、営業利益261億円（同12.3%増）、経常利益267億円（同17.1%増）及び当期純利益163億円（同2.7%増）と増収増益を達成し、通期予想に対する上振れ余地を残しながら着地！！

## 2. 通期業績見通し

前回予想を上方修正し、「24期連続増収増益」を見込む！

- ▶ 連結業績の進捗状況を踏まえた通期業績の見通しは、2013年2月5日に上方修正した予想を再度修正いたします。  
内訳は、売上高5,630億円（従来予想は5,620億円）、営業利益313億円（同310億円）、経常利益318億円（同310億円）及び当期純利益202億円（同201億円）であります。

# 3Q累計業績サマリー



【期間：2012年7月1日～2013年3月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当3Q実績				前3Q実績		通期公表予想 ※1	
	金額	百分比	前期比	進捗率※3	金額	百分比	金額	百分比
売上高	428,070	100.0%	104.8%	76.2%	408,292	100.0%	562,000	100.0%
売上総利益	113,074	26.4%	107.4%	76.7%	105,294	25.8%	147,500	26.2%
販管費	86,936	20.3%	106.0%	74.6%	82,027	20.1%	116,500	20.7%
営業利益	26,138	6.1%	112.3%	84.3%	23,267	5.7%	31,000	5.5%
経常利益	26,728	6.2%	117.1%	86.2%	22,827	5.6%	31,000	5.5%
当期純利益	16,333	3.8%	102.7%	81.3%	15,906	3.9%	20,100	3.6%
1株利益	211.58円			102.5%	206.41円		260.33円	

個別実績	当3Q実績				前3Q実績		(参考予想) ※2	
	金額	百分比	前期比	進捗率※3	金額	百分比	金額	百分比
売上高	297,097	100.0%	106.7%	76.4%	278,554	100.0%	388,800	100.0%
売上総利益	77,615	26.1%	110.3%	77.6%	70,382	25.2%	100,000	25.7%
販管費	58,562	19.7%	109.8%	75.1%	53,340	19.1%	78,000	20.0%
営業利益	19,053	6.4%	111.8%	86.6%	17,042	6.1%	22,000	5.7%
経常利益	19,506	6.6%	118.2%	87.1%	16,503	5.9%	22,400	5.8%

※1. 連結業績予想は、2013年2月5日に当初予想（売上高5,600億円、営業利益305億円、経常利益303億円、純利益200億円）を上方修正したものであります。

※2. 当社は個別業績予想を公式開示しておりませんが、連結業績予想の前提となる予想を参考予想として記載しております。

※3. 進捗率は通期予想に対する進行割合を表しております。



# 3Q累計連結業績概況コメント

## ▶連結売上高：4,281億円（前期比4.8%増）

消費マインドの大勢は、節約志向が根強く残り、「食品」や「日用雑貨品」などを中心とした生活必需品関連は価格訴求競争が続く。天候面では寒暖差が激しい異常気象が度々発生し、季節商品の販売動向やお客さま来店数に影響も。

已年になると徐々に駆け込み需要と景気の回復期待消費が活発化するような方向感が見え始め、嗜好性の高い商品などが人気を獲得。DQ既存店は前年7月特需の反動及び営業日数の減少が響き、売上高は0.7%減となるが、売上総利益高は0.8%増で進捗。長崎屋MEGAは売上高0.9%増、総利益高2.8%増で進捗。

## ▶当3Q末店舗数：252店（前期末242店）

新規出店13店（DQ6店、New MEGA7店）、閉鎖3店（エッセンス1店、長崎屋1店、ドイト1店）。

## ▶連結売上総利益：1,131億円、同率：26.4%（前期比0.6pt改善）

「食品」や「日用消耗品」など、一部の価格訴求型商品については競争激化状態が続くものの、独創的なライフスタイル提案型商品やプライベートブランド商品などが、安定的に支持率を高めており、売上総利益率は0.6pt改善。

## ▶連結販管費：869億円（同6.0%増）、販管費率：20.3%（同0.2pt上昇）

New MEGAを中心に新規出店や地方展開が増加したことによる人件費や什器備品費などの出店関連諸費用及び光熱費などが負担増となって、販管費率は0.2pt上昇したが、売上総利益伸長率を下回る増加率に抑制。

## ▶営業外収支尻：5.9億円のプラス

受取利息4.2億円、負ののれん償却5億円/支払利息11.3億円など。

## ▶特別損益尻：4.5億円のマイナス

訴訟和解金0.4億円/固定資産売却損1.3億円、固定資産除却損1億円、店舗閉鎖損失1.3億円など。

## ▶これらのことから、営業利益261億円（同12.3%増）、経常利益267億円（同17.1%増）、当期純利益163億円（2.7%増）と当3Q累計期間も大幅増益を達成し、同期間最高益を更新。

# 3Q累計連結業績概況

【期間：2012年7月1日～2013年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	428,070	100.0%	408,292	100.0%	104.8%
売上総利益	113,074	26.4%	105,294	25.8%	107.4%
販管費	86,936	20.3%	82,027	20.1%	106.0%
給与手当	29,566	6.9%	27,779	6.8%	106.4%
地代家賃	12,873	3.0%	13,604	3.3%	94.6%
支払手数料	9,883	2.3%	9,264	2.3%	106.7%
減価償却費	7,369	1.7%	6,909	1.7%	106.7%
その他	27,245	6.4%	24,471	6.0%	111.3%
営業利益	26,138	6.1%	23,267	5.7%	112.3%
経常利益	26,728	6.2%	22,827	5.6%	117.1%
当期純利益	16,333	3.8%	15,906	3.9%	102.7%
1株当たり純利益	211.58円		206.41円		102.5%



# 3Q累計事業別業績概況コメント

## ▶リテール事業4,120億円（前期比4.8%増）

実質ベース営業日数の減少や天候不順が及ぼす「お客さま来店数」へのマイナス要因に苦慮するものの、「小回りの利いた」商品構成と価格設定がお客さまニーズを的確に捉える。

### \*「家電製品」432億円（同1.1%減）

薄型テレビやAV機器の市場縮小により苦戦する一方で、スマートフォンアクセサリやPOSAカード（ゲーム・音楽プリペイドカード）といった電気小物の需要が増加。空気清浄機などの季節家電が堅調な推移を描く。

### \*「日用雑貨品」943億円（同6.0%増）

寝具・インテリア用品の需要減を化粧品・オーラルケア商品・サロンシャンプーなど高機能消耗品の好調な売れ行きがカバー。季節商品の早期展開（ハロウィン・クリスマス・花粉対策・新生活関連商品）がお客さまの需要を一層喚起。

### \*「食品」1,210億円（同4.8%増）

“健康”をキーワードとしたヨーグルト・野菜ジュース・トクホ関連の機能性食品の強い需要が下支え。季節性イベント（クリスマス・花見・歓送迎会）関連商品の拡販が奏効し、酒類・菓子類が伸長。

### \*「時計・ファッション用品」987億円（同10.0%増）

他店との価格差・相場高が追い風となり、輸入ブランド・宝飾・アクセサリ類への人気が高まる。手袋など季節性の服飾小物、機能性下着などの実用衣料、キャリーバッグが貢献。

### \*「スポーツ・レジャー用品」247億円（同7.1%増）

夏のアウトドア関連用品、フィットネス用品、洗車用品などのカー用品が同部門の販売高を押し上げる。

### \*「DIY用品」132億円（同4.1%減）

防災用品、種苗・球根類が低迷した一方で、ガーデンライトなどエクステリア用品が伸長。既存店舗は改装効果とテコ入れにより売上高・粗利高ともに改善。

### \*「海外（ハワイ）」99億円（同5.3%増）

生鮮・惣菜・グロッサリーなどを中心としたオリエンタルフード強化策により、顧客リピート率が上昇。既存店はUSドルベースで2.7%増。（ご参考：当3Q \$1=80.4円、前3Q=78.6円）

## ▶テナント賃貸事業122億円（同4.3%増）

一部のテナント事業者の縮小や撤退が底打ちし、商業施設事業も徐々に寄与。

# 3Q累計事業別業績概況

【期間：2012年7月1日～2013年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	412,031	96.3%	392,791	96.2%	104.9%
家電製品	43,166	10.1%	43,640	10.7%	98.9%
日用雑貨品	94,322	22.0%	88,983	21.8%	106.0%
食品	121,032	28.3%	115,480	28.3%	104.8%
時計・ファッション用品	98,732	23.1%	89,770	22.0%	110.0%
スポーツ・レジャー用品	24,674	5.8%	23,033	5.6%	107.1%
DIY用品	13,152	3.1%	13,722	3.4%	95.8%
海外	9,923	2.3%	9,426	2.3%	105.3%
その他商品	7,030	1.6%	8,735	2.1%	80.5%
テナント賃貸事業	12,230	2.8%	11,731	2.9%	104.3%
その他事業	3,809	0.9%	3,770	0.9%	101.0%
合計	428,070	100.0%	408,292	100.0%	104.8%

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

# 主な資産の状況

(単位：百万円)

	13年3月	12年6月	増減額
流動資産	148,890	138,816	10,074
現預金	39,852	34,237	5,615
商品	84,697	83,641	1,056
固定資産	242,343	223,835	18,508
建物等	66,260	59,899	6,361
土地	106,813	97,317	9,496
敷金保証金	31,843	32,286	▲443
資産合計	391,233	362,651	28,582

## 主な資産の状況

### ▶総資産：3,912億円

(前期末比286億円増)

主な増加要因は、現預金56億円増、新規出店及びMEGA店への業態転換に伴う棚卸資産11億円増、出店に伴う有形固定資産160億円増及び投資その他の資産25億円増など。

### ▶現預金：399億円 (同56億円増)

効率改善を追究しながら、当期中における調達には、銀行借入れ及び社債発行を通じて完了済。

### ▶商品：847億円 (同11億円増)

New MEGAを含む新規出店は13店と売場面積が拡大する中で、既存店を中心に交差主義比率改善に注力し、滞留在庫を減少。

### ▶固定資産：2,423億円

(同185億円増)

新規出店13店以外に、商業ビルを含む次期以降の出店候補物件の獲得などにより、有形固定資産160億円及び投資その他の資産25億円が増加。

# 主な負債・純資産の状況

(単位：百万円)

	13年3月	12年6月	増減額
流動負債	127,066	120,243	6,823
買掛金	47,443	44,793	2,650
短期負債 <sup>※1</sup>	57,321	49,045	8,276
固定負債	101,460	96,673	4,787
社債等 <sup>※2</sup>	48,880	47,820	1,060
長期借入金	36,510	36,476	34
負債合計	228,526	216,916	11,610
純資産合計	162,707	145,735	16,972
負債・純資産合計	391,233	362,651	28,582

## 主な負債・純資産の状況

- ▶ 負債合計：2,285億円  
(同116億円増)  
主な増加要因は、買掛金27億円、銀行借入金及び社債など有利子負債94億円増など。
- ▶ 有利子負債：1,427億円  
(同94億円増、依存率36.5%)  
(うちACR165億円)
- ▶ 純負債：1,029億円 (同38億円増)
- ▶ 純資産：1,627億円  
利益の積み増しにより同170億円増、  
自己資本比率40.9%
- ▶ D/Eレシオ：87.7%  
(前3Q比29.7pt改善、ACR除き78.9%)
- ▶ インタレスト・カバレッジ・レシオ：23.5倍  
(同5.1倍改善)

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債、同転換社債、コマーシャル・ペーパー

※2 社債等＝社債、転換社債

# 3Q累計セグメント情報（事業別）

セグメント利益は、「リテール事業」204億円、「テナント賃貸事業」40億円、  
「その他の事業」17億円と、いずれも順調に推移！！

## 当3Q累計 セグメント概要【2012年7月1日～2013年3月31日】

（単位：百万円）

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	412,031	12,230	3,809	428,070	—	428,070
内部取引等	2	2,024	2,776	4,802	▲4,802	—
計	412,033	14,254	6,585	432,872	▲4,802	428,070
セグメント利益	20,371	4,004	1,714	26,089	49	26,138

## 前3Q累計 セグメント概要【2011年7月1日～2012年3月31日】

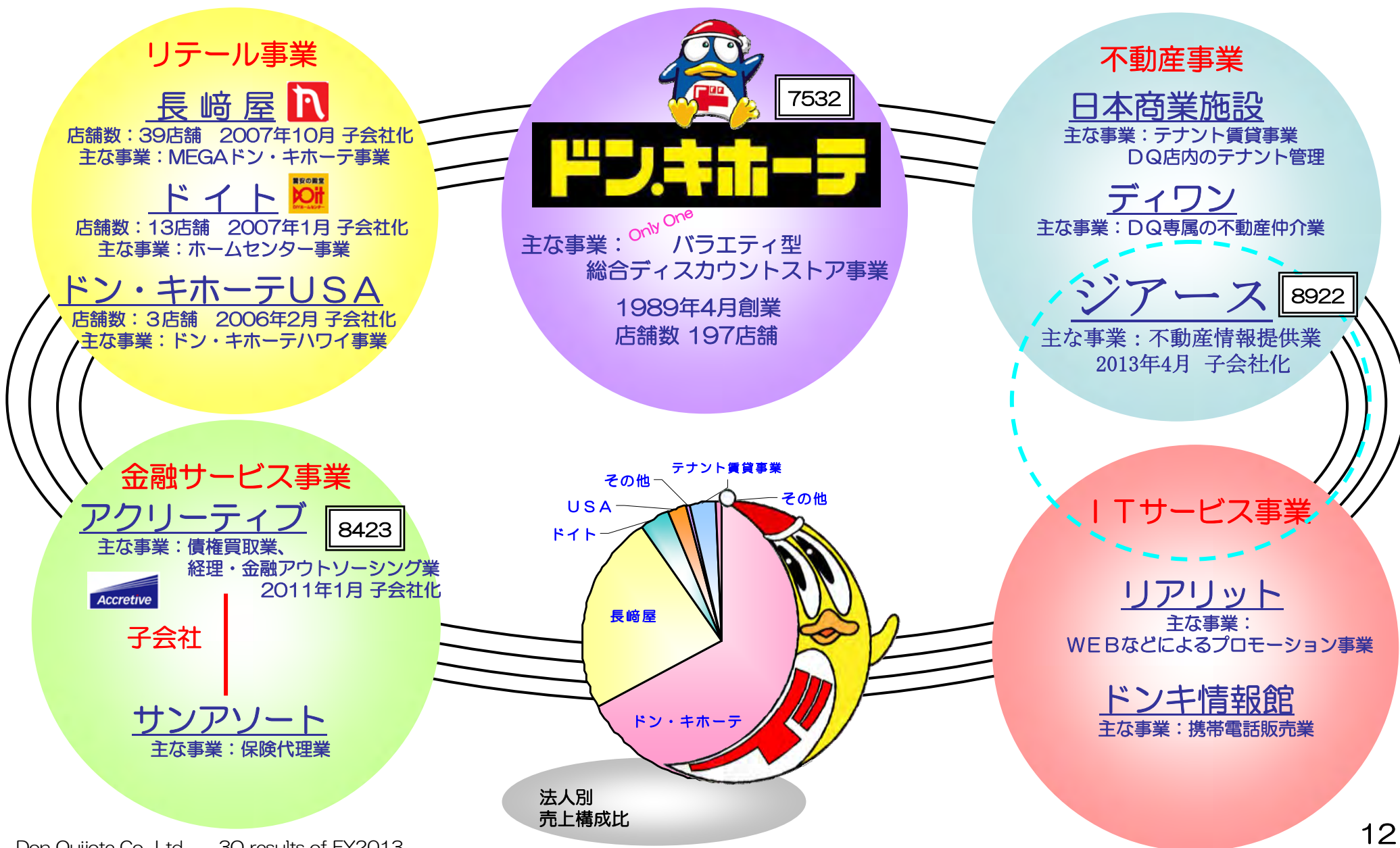
（単位：百万円）

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	392,791	11,731	3,770	408,292	—	408,292
内部取引等	6	2,566	1,601	4,173	▲4,173	—
計	392,797	14,297	5,371	412,465	▲4,173	408,292
セグメント利益	17,257	4,802	1,371	23,430	▲163	23,267

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。



# グループ企業マトリクス





# キャッシュフロー&設備投資の状況

(単位：百万円)

	当3Q	前3Q	増減額
<b>1.キャッシュフローの状況</b>			
期首残高	29,973	26,875	3,098
営業活動CF	27,792	21,237	6,555
投資活動CF	▲20,127	▲31,408	11,281
財務活動CF	6,722	27,702	▲20,980
期中増減等	14,712	20,926	▲6,214
期末残高	44,685	47,801	▲3,116

## 2.設備投資の状況

設備投資額	26,664	17,489	9,175
キャッシュフロー <sup>※</sup>	21,839	21,694	145
差引	▲4,825	4,205	▲9,030

### キャッシュフロー

#### <営業CF>

税金等調整前純利益263億円、減価償却費81億円及び仕入債務の増加額26億円などが増加要因となる一方で、たな卸資産の増加10億円及び税金支払額102億円などが減少要因となったことから、278億円の収入

#### <投資CF>

有形固定資産の取得254億円及び敷金保証金の差入れ10億円などが増加要因となる一方で、定期預金の払戻し62億円などが減少要因となったことにより、201億円の支出

#### <財務CF>

当期における設備投資、借入金返済及び社債償還資金などの必要資金は、デット調達により92億円充当する一方で、配当金の支払額24億円などが減少要因となったことにより、67億円の収入

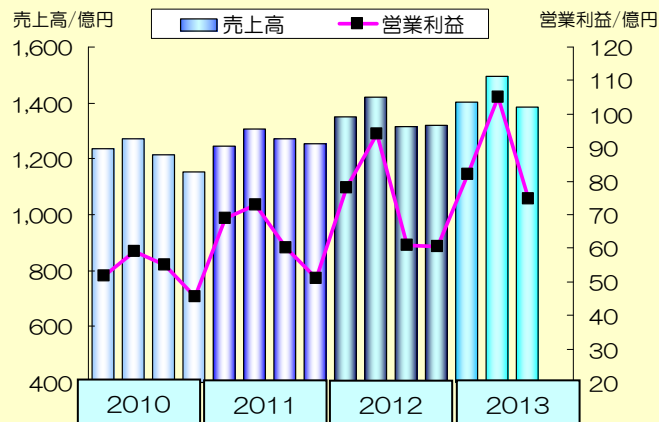
### 設備投資

当期中の新規出店に加えて、次期以降の出店予定物件や商業施設物件を獲得したことなどで、設備投資は267億円（DQ145億円、長崎屋15億円、日本商業施設90億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は240億円）。一方、営業活動キャッシュフローは278億円獲得。

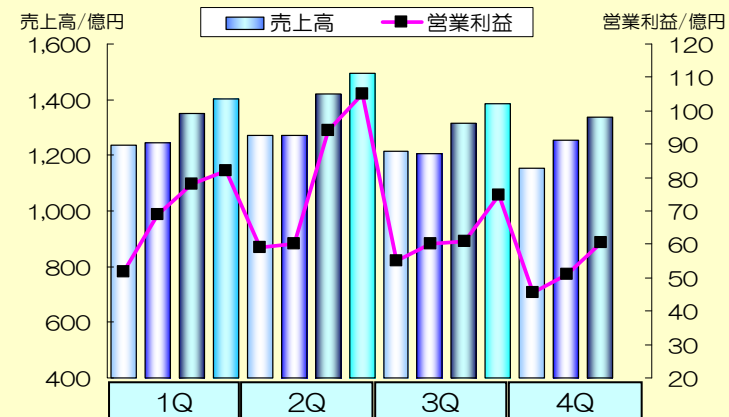
※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

# 四半期業績推移

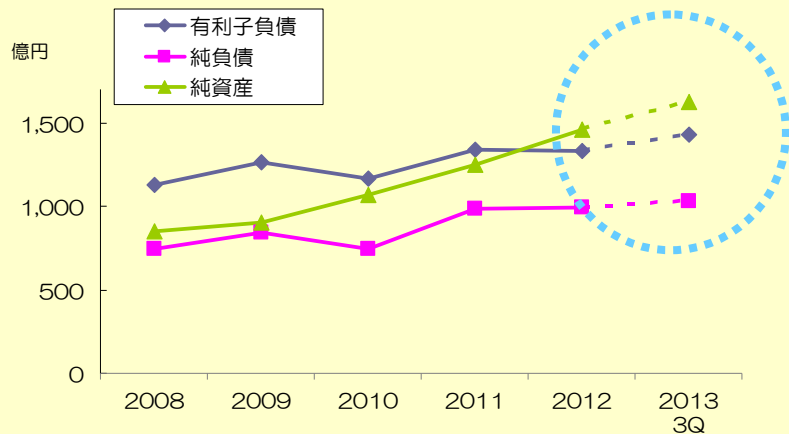
## 四半期業績推移の状況 (A)



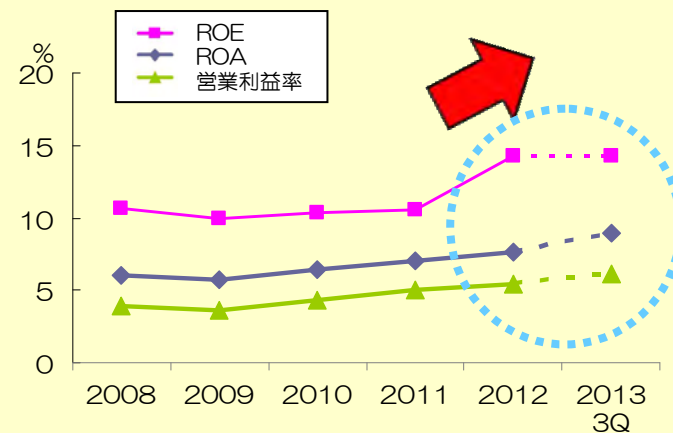
## 四半期業績推移の状況 (B)



## 純資産・純負債・有利子負債の状況



## 営業利益率・ROA・ROEの状況



# 3Q連結業績概況

【期間：2013年1月1日～2013年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	138,426	100.0%	131,353	100.0%	105.4%
売上総利益	36,888	26.6%	33,484	25.5%	110.2%
販管費	29,423	21.2%	27,435	20.9%	107.2%
給与手当	9,905	7.1%	9,404	7.2%	105.3%
地代家賃	4,282	3.1%	4,616	3.5%	92.8%
支払手数料	3,195	2.3%	3,062	2.3%	104.3%
減価償却費	2,576	1.9%	2,432	1.9%	105.9%
その他	9,465	6.8%	7,921	6.0%	119.5%
営業利益	7,465	5.4%	6,049	4.6%	123.4%
経常利益	7,654	5.5%	6,376	4.9%	120.0%
当期純利益	4,556	3.3%	3,971	3.0%	114.7%
1株当たり純利益	58.94円		51.51円		114.4%

# 3Q事業別業績概況

【期間：2013年1月1日～2013年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	133,043	96.1%	126,231	96.1%	105.4%
家電製品	14,123	10.2%	14,117	10.8%	100.0%
日用雑貨品	30,204	21.8%	28,139	21.4%	107.3%
食品	40,592	29.3%	38,687	29.5%	104.9%
時計・ファッション用品	30,908	22.3%	28,264	21.5%	109.4%
スポーツ・レジャー用品	6,885	5.0%	6,312	4.8%	109.1%
DIY用品	4,458	3.2%	4,632	3.5%	96.2%
海外	3,609	2.6%	3,211	2.4%	112.4%
その他商品	2,264	1.7%	2,869	2.2%	78.9%
テナント賃貸事業	4,076	2.9%	3,860	2.9%	105.6%
その他事業	1,307	1.0%	1,262	1.0%	103.6%
合計	138,426	100.0%	131,353	100.0%	105.4%

※報告セグメントを「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

# 3Qサマリー

## ➤ 連結売上高：1,384億円（前期比5.4%増）

異常な積雪や寒暖差、営業日数が少ないカレンダー周り（前年うるう年のため）など既存店におけるお客さま来店数にマイナス影響を与える要素が多かった中でも着実に実績を積み上げる。（ご参考：DQ既存店売上高0.1%減、粗利益高1.8%増）

「食品」部門はヨーグルトなど“健康”をテーマとした商品、バレンタイン・お花見など季節イベントが、菓子類・酒類の需要を喚起。「家電製品」部門はスマートフォンアクセサリ関連商品、ゲーム・音楽プリペイドカードが好調。地デジ移行以来 苦戦していた同部門の売上高を回復に導く。積雪・黄砂により洗車用品の需要が急伸し「スポーツ・レジャー用品」部門の売上高を押し上げる。

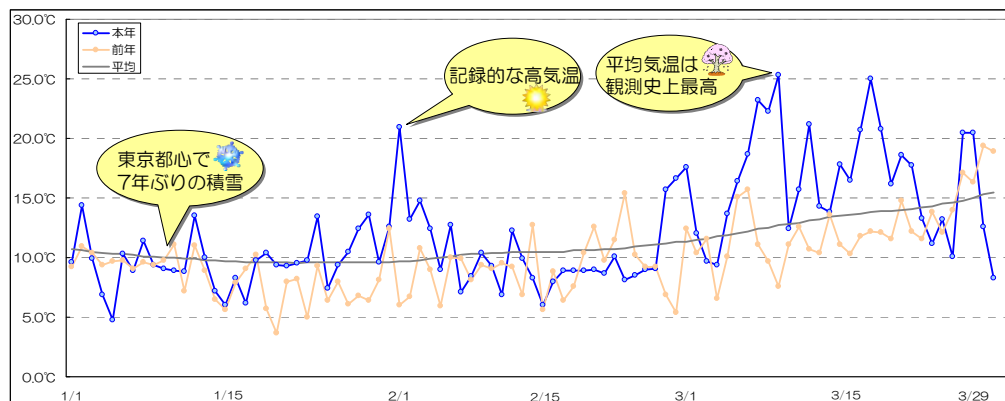
## ➤ 連結売上総利益：369億円（同10.2%増） ➤ 連結販管費294億円（同7.2%増）

季節ニーズを先読みした商品の早期展開と在庫抑制が総利益率改善に貢献したことにより1.1pt改善。販管費は新店諸費用や光熱費負担増などがあったが総利益増益効果により吸収。

## ➤ これらのことから、営業利益75億円（23.4%増）、経常利益77億円（20.0%増）、純利益46億円（14.7%増）といずれも当期間の最高益を更新。



## 気温の推移

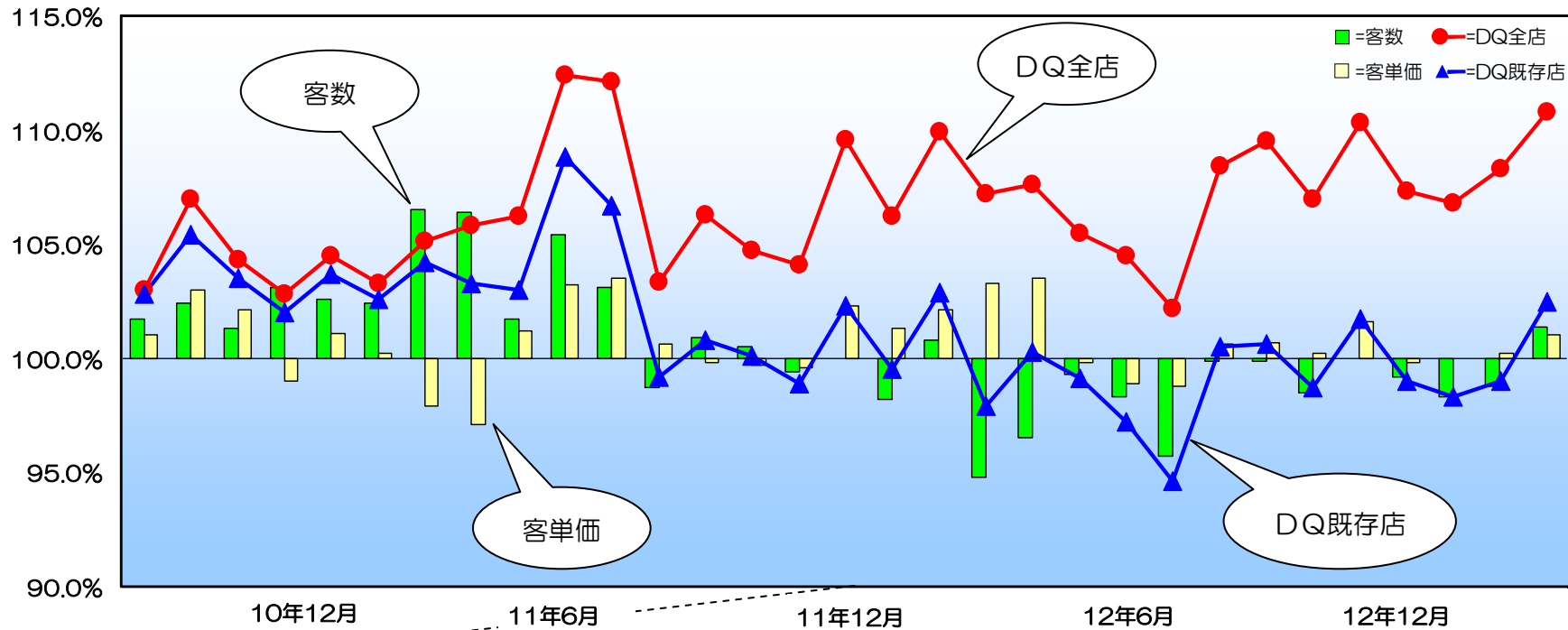


## カレンダー比較

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
1月	本年	祝日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	前年	祝日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
3月	本年	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	前年	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土

2月は前年うるう年のため本年1営業日減

# 月次販売高の状況 (DQ)



既存店	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
売上高	99.5%	102.9%	97.9%	100.3%	99.1%	97.2%	94.6%	100.5%	100.6%	98.7%	101.7%	99.0%	98.3%	99.0%	102.5%
・客数	98.2%	100.8%	94.8%	96.5%	99.3%	98.3%	95.7%	99.9%	99.9%	98.5%	100.0%	99.2%	98.3%	98.8%	101.4%
・客単価	101.3%	102.1%	103.3%	103.5%	99.8%	98.9%	98.8%	100.6%	100.7%	100.2%	101.6%	99.8%	100.0%	100.2%	101.0%
対象店舗数	163店	162店	156店	158店	164店	164店	165店	167店	167店	167店	169店	172店	173店	173店	173店

前年7月特需の反動と営業日数の減少を除くと売上高は前年並みで推移し、  
セールスマックスの工夫と改善により総利益高は前年クリアー。  
3Q累計期間のDQ既存店は0.7%減（客数1.0%減、客単価0.3%増、3Qのみ0.1%減）で推移。



# 当期出店状況

## フォーマット別店舗数

	2011年 6月期	2012年 6月期	2013年6月期		
			1Q	2Q	3Q
ドン・キホーテ※1	150	157	157	161	163
ピカソ※2	10	14	14	14	13
M E G A※3	40	40	40	40	40
New M E G A※4	3	9	12	14	16
海外(ハワイ)	3	3	3	3	3
ドイト	16	14	13	13	13
長崎屋	6	5	4	4	4

## 法人別店舗数

ドン・キホーテ	169	185	188	194	197
長崎屋	40	40	39	39	39
ドイト	16	14	13	13	13
D Q U S A	3	3	3	3	3
合計	228	242	243	249	252

※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。

※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」及び「エッセンス」が含まれております。

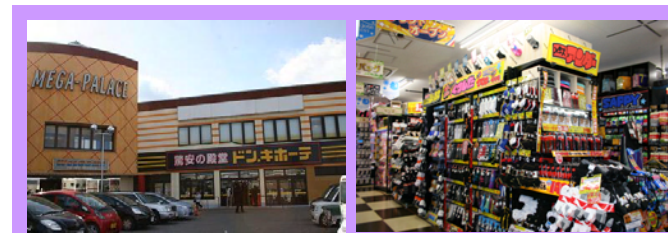
※3. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。

※4. New MEGA業態を区分表記しました。

※5. 当期中において、3店舗(長崎屋・ドイト・エッセンス)を閉鎖しております。



3月 MEGA 飯塚店



2月 神戸西店

ソリューション型出店

福岡県初の  
MEGA業態



3月 高岡店

富山県内2店舗目




和歌山県内2店舗目

2月 MEGA 紀の川店

# 当期ハイライト

既存店は安定感を増して、商圈内シェアと収益力を拡大。  
当3Q累計期間の新規出店はDQ6店、New MEGA7店の計13店（うちソリューション出店3店）。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">四日市</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">岐阜瑞穂</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">袋井</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">広島 八丁堀</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">宜野湾</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">山形嶋南</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">守口大日</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">※ 下関長府</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">※ 上越 インター</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">※ 神戸西</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">飯塚</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">紀の川</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高岡</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">福井</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">桜上水</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">※ 西条玉津</div> </div>
長崎屋				
ドイト				

コミットメント  
ライン設定

社債発行登録  
(500億円)

沖縄県  
初出店

MSCI標準  
指数に採用

山形県  
初出店

無担保社債発行  
(150億円)

代表者  
の異動

(株)ジアース増資引き受け  
(当4Qから連結子会社化)

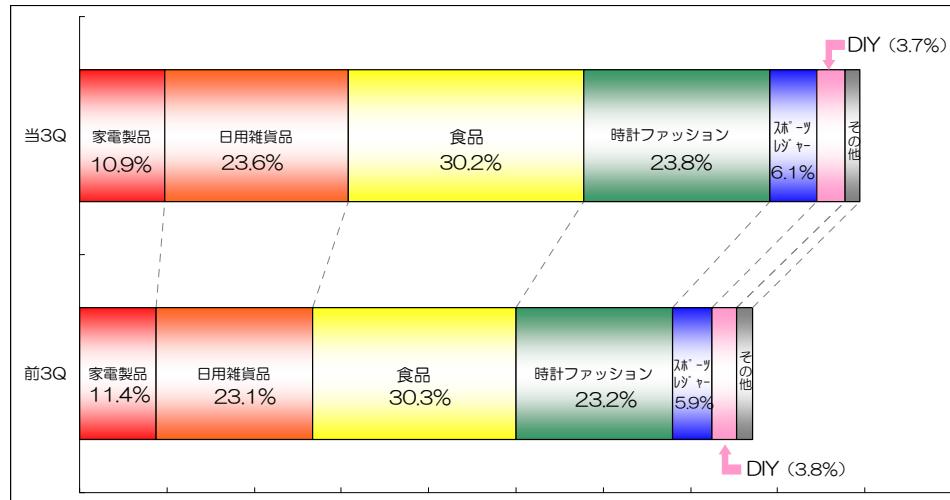
■ = ドンキ

■ = MEGA

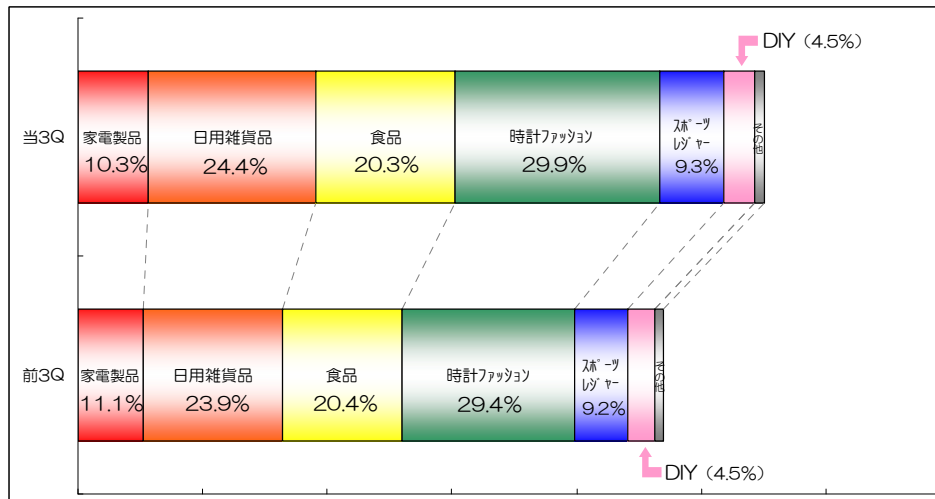
※ = ソリューション出店

# 商品部門別の状況

## 連結売上高構成比



## 連結売上総利益構成比



- 「日用雑貨品」部門は高付加価値商品が牽引し、売上高・粗利高ともに改善。
- 「食品」部門は商圈内の価格競争力を発揮。季節イベントを先取りした商品提案で「菓子類」が好調。
- 宝飾・貴金属への人気が高まったことから「時計・ファッション」部門が伸長。



# 情熱価格info ~共同開発商品~



## 洋食屋さんのスパゲッティ ほうれん草とベーコンのしょうゆ仕立て

日本製粉（オーマイ）との共同開発商品。  
人気のメニューを冷凍スパゲッティで再現し、  
価格と価値を訴求。



## コンパクトサイクロンクリーナー

お客さまモニターのご意見を参考に、  
ゴミが見えにくいスモーク色のダスト  
カップを採用。サイクロン式とタービ  
ンヘッドで、コンパクトながら、確か  
な吸引力を実現。



## セミジェットヘルメット

オートバイ、自転車、競技用ヘルメット  
のエキスパートブランドの協力により、  
使いやすい軽さを追求し、高い安全性を保証。



## 情熱価格×ニッカシードル『りんごの恵み』

アサヒビールグループとの共同開発『りんご  
の恵み』。りんごのスパークリングワイン。



## ムラオカの梅しば

梅しばといえばムラオカ。  
お客さまの支持が高い珍味カテゴリー。



## USB接続録画対応 32型ハイビジョンLED液晶テレビ

最狭部14mmのスリムベゼルを採用、ヘアライン加  
工を施し、高級感のあるデザインと評判。  
USB接続ハードディスク（別売）を繋いで、番組予約  
録画も可能。



## 食パン『薫麦（くんばく）』

6枚切・ロール6個入など

引きが強く甘味のある生地が特徴。毎日  
食べるものだからこそ良いものをお手ごろ  
価格で提供。こだわりぬいた品質と価格の  
ベストマッチングを実現。



## —中長期重点戦略—

1. 30期連続増収増益を目指す
2. PB強化による利益率アップ
3. ソリューション出店という新たな店舗開発

### お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. グループ：事業効率のさらなる改善を進め、お客さま支持率の高い店舗運営を促進
2. 営業方針：業態創造と変化対応  
交差主義比率の改善を進めながら商圈内競争力を強化  
お客さま層拡大に対応した商品編集とサービスレベルの向上
3. 商品戦略：消費マインドの変化に適應する商品ポートフォリオの改廃と進化  
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進  
PB・OEM商品ラインナップの拡充（新機能・こだわり商品など）
4. 店舗戦略：設備投資額300億円（従来予想を据え置き）  
新規出店16店、出店地域の拡大、New MEGA店の収益力アップ  
DQ既存店の予想：下半期＝0.0%増、通期＝0.5%減（3Q累計実績＝0.7%減）
5. 財務戦略：資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善  
デット調達を有効活用。エクイティファイナンスの予定なし  
年間配当金予想＝31円00銭（中間配当実績：10円00銭）

# 通期の連結業績予想

(単位：百万円)

	通期修正予想			前回予想※		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	563,000	100.0%	104.2%	562,000	100.0%	540,255	100.0%
売上総利益	148,000	26.3%	106.1%	147,500	26.2%	139,543	25.8%
販管費	116,700	20.7%	105.9%	116,500	20.7%	110,223	20.4%
営業利益	31,300	5.6%	106.8%	31,000	5.5%	29,320	5.4%
経常利益	31,800	5.6%	108.6%	31,000	5.5%	29,283	5.4%
当期純利益	20,200	3.6%	101.8%	20,100	3.6%	19,845	3.7%
1株当たり純利益	260.98円	—	101.4%	260.33円	—	257.47円	—
設備投資額	30,000	—	127.3%	30,000	—	23,563	—
減価償却費	10,000	1.8%	104.5%	9,800	1.7%	9,566	1.8%

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、  
引き続き増収増益決算を目指します。

※ 前回予想は、2013年2月5日に公表したものであります。24



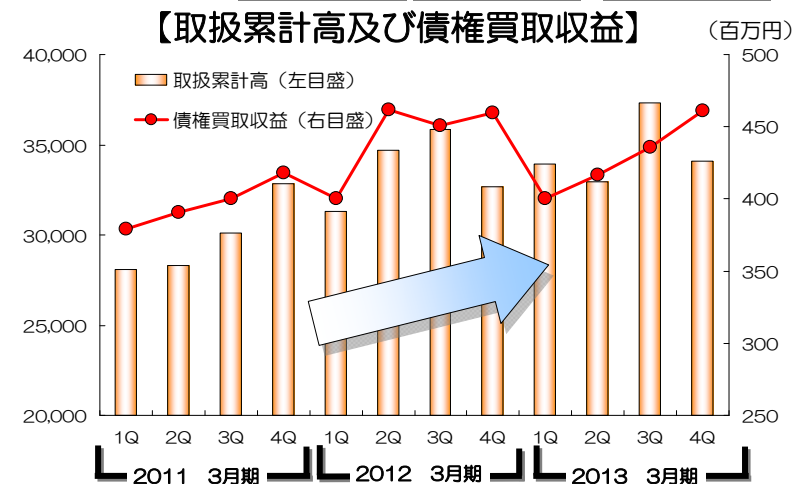
# アクリーティブ決算業績

(単位：百万円)

	2013年3月期			2012年3月期		
【PL概況】	金額	百分比	前期比	金額	百分比	
取扱累計高	138,627	—	103.0%	134,569	—	
営業収益	2,808	100.0%	107.3%	2,618	100.0%	
債権買取収益	1,715	61.1%	96.7%	1,773	67.7%	
業務受託収益	930	33.1%	110.2%	845	32.3%	
その他収益	163	5.8%	31942.2%	0	0.0%	
金融費用	289	10.3%	90.9%	318	12.1%	
販売管理費	1,589	56.6%	102.8%	1,546	59.1%	
営業利益	930	33.1%	123.3%	754	28.8%	
経常利益	980	34.9%	124.8%	785	29.9%	
当期純利益	854	30.4%	120.6%	708	27.0%	

(単位：百万円)

	2013年3月期		2012年3月期	
【BS概況】	金額	増減	金額	
総資産	20,391	3,091	17,300	
負債	17,566	2,282	15,284	
純資産	2,824	809	2,015	



ドン・キホーテが本格的に関与した11年3月期から2期間で業績改善が進む!

営業収益 (22.2億円⇒28.1億円)、経常利益 (3.6億⇒9.8億円)  
 総資産 (169.2億円⇒203.9億円)、純資産 (13.0億円⇒28.2億円)  
 自己資本比率 (7.3%⇒13.9%)

# 本日はありがとうございました。



## IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドン・キホーテ IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL: 03-5725-7588 FAX: 03-5725-7024

e-mail: ir@donki.co.jp



## IRカレンダー

第33期（2013年6月期）決算発表（予定）

決算発表日：2013年8月16日（金）

説明会会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル6F）

## 将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

株式会社  
ドン.キホーテ  
Don Quijote Co.,Ltd.